

ースタッフ紹介ー

役 職	スタッフ名
部 長	森朝 紀文
次 長	出山 恭隆
主 幹	中川 直樹
主 査	高橋 和代
主 査	泉原 里絵
主 査	馬場 洋子 (7月退職)
主 査	安井 結香里
主 査	若林 里絵
主 査	西村 亜希子
主 査	西井 拓人
	河津 敏明
	島田 弘子
	松浪 美和
	宮本 紅喜
	北庄司 敦久
	原 義浩
	宮本 訓子
	小垣 睦
	南 佳代
	山道 麻葉
	上田 祥子
	伊藤 健二
	中川 貴弘
	上見 藍子 (12月退職)
	藪内 新平
	山地 亜希
	松本 光司 (6月入職)
	越山 晶弘 (8月入職)

ー概要ー

薬剤科では、調剤、注射薬の無菌混合調製や服薬指導等のさまざまな業務を行っている。特に、2012年度の診療報酬の改定により、病院薬剤師の念願であった病棟薬剤業務実施加算が新設されたのを受け、全病棟に病棟専任薬剤師を配置し、オーダ入力支援等の新しい業務を実施することにより算定を行っている。また、2016年度に新設された病棟薬剤業務実施加算2を、集中治療室において算定している。

厚生労働省医政局通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が発出され、薬剤師がチーム医療に参画することが求められており、当院では感染対策チーム (ICT)、栄養サポートチーム (NST)、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームに積極的に参加し、医師、看護師等と共に多職種で病棟ラウンドを実施している。生活習慣病予防教室にも参加し、薬剤師が薬に関する患者向けの講習会を行っている。薬剤科では今後とも、質の高い病棟薬剤業務の実践と有効かつ安全な薬物療法を提供するため、以下の4項目を基本的な理念としている。

《基本理念》

1. 薬の専門家として、患者さんにとって有益な薬物療法を提供する。
2. 薬によるインシデント・アクシデントを減少させ、安全な薬物療法を提供する。
3. 臨床薬剤師として医療チームに貢献する。
4. 薬剤師の職能を高めるため、研究心を持って日々努力する。

ー実績ー

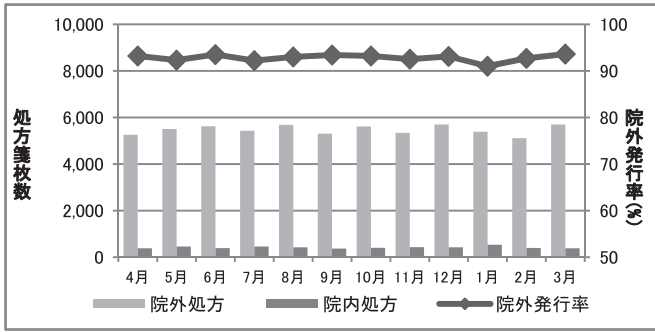
2000年4月より、病院運営の一環として、「医薬分業の徹底と薬剤科病棟業務の充実」に基づき、全面院外処方せん発行を行い、2017年度月平均の発行率は92.8%を達成している。(グラフ1)

薬剤管理指導業務における服薬指導実施患者数及び指導件数については、月平均の指導患者数803名、指導件数982件(退院加算300件)と順調な推移を示している。(グラフ2)

また、無菌製剤処理加算の施設基準を2001年3月に取得し、TPN製剤の調製を行っているが、2010年8月より一般の点滴を含めた全ての注射薬の無菌混合調製を行っている。2017年度における混合調製の実績として、調製本数は月平均724本、年間8,687本となっている。(グラフ3)

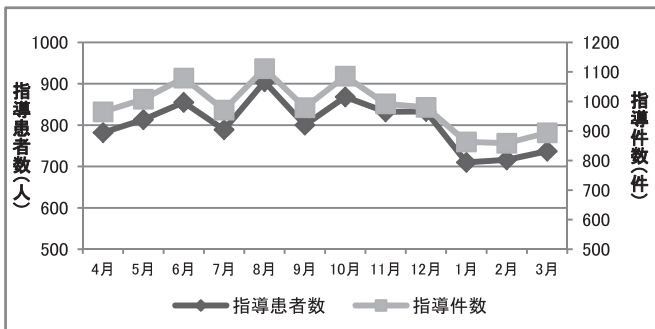
次に、外来の抗がん薬の混合調製を2002年8月より開始し、2004年12月より外来・入院の全患者について、抗がん薬のレジメンの一元管理と調製を実施している。2017年度における実績は月平均288名、年間3,450名の患者に調製を行い、調製本数は月平均424本、年間5,086本となっている。(グラフ4) また、2014年4月より外来がん治療センターにがん薬物療法認定薬剤師を配置し、がん患者指導料3を月平均約23件算定している。

さらに、入退院サポートセンター内に持参薬鑑別コーナーを設置し、全ての入院患者の鑑別を2008年4月より開始している。2017年度における実績は月平均436人、3,182剤となった。(グラフ5)



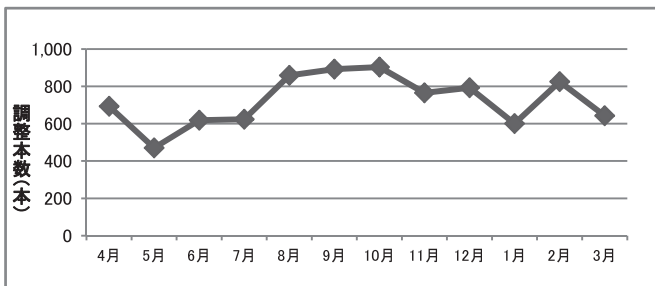
(グラフ1) 2017年度処方箋枚数と院外処方箋発行率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
院外発行率	93.2	92.3	93.5	92.2	93.0	93.4	93.2	92.5	93.1	91.0	92.7	93.6
院外処方	5,258	5,504	5,623	5,431	5,684	5,303	5,615	5,340	5,696	5,390	5,116	5,695
院内処方	385	460	393	459	430	376	409	435	425	536	403	390



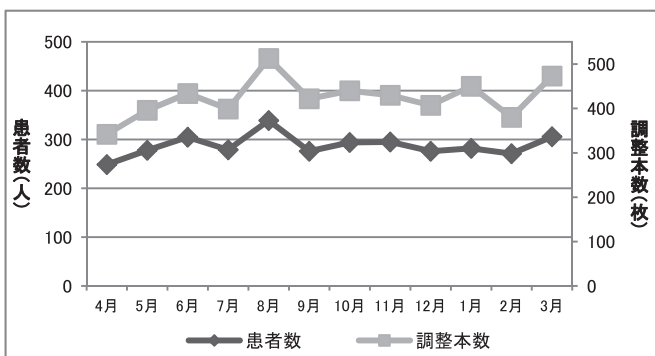
(グラフ2) 2017年度服薬指導実施患者数・件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指導患者数	782	813	855	789	905	800	868	832	833	710	716	737
指導件数	965	1008	1079	971	1111	979	1086	992	980	863	859	894



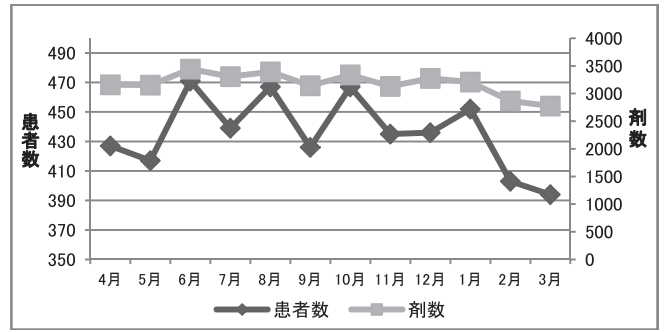
(グラフ3) 2017年度注射薬無菌調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調製本数	693	470	619	624	859	892	903	765	793	601	825	643



(グラフ4) 2017年度抗がん剤調製患者数・本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	249	278	305	279	339	276	294	295	276	282	271	306
調製本数	342	396	434	399	513	422	440	430	407	450	380	473



(グラフ5) 2017年度持参薬鑑別患者数・剤数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	427	417	471	439	467	426	467	435	436	452	403	394
剤数	3159	3154	3442	3307	3392	3140	3338	3131	3273	3209	2867	2774

一今年度の成果と反省点一

今年度は退職者の補充と新人薬剤師の教育に時間を要したが、薬剤管理指導業務は昨年度より充実することができた。服薬指導実施件数は、目標の月平均1000件に達しなかったものの月平均982件、退院時指導は月平均300件を算定することができた。

また、今年度は内服薬の返品削減の取り組みを行い、一包化の減少や削減キャンペーンを行うことにより、返品剤数、金額、廃棄金額を減少することができた。

一來年度への抱負一

薬剤管理指導業務は、指導件数を増加させるのみではなく、質を向上させる取り組みを行いたい。また、ICT、NSTなどの多くのチーム医療に参画しているが、各領域で薬の専門家としてさらに能力を発揮できるようにするために、認定、専門薬剤師等の資格の取得を推進していく。

